

## 第4分科会 研究課題「組織・運営に関する情報」

### 研究主題「家庭や地域社会との継続的な連携・協働へ向けての教頭の関わり方」

#### ～家庭や地域社会と一体となった教育活動の実践と考察～

宮崎支会第9班

## 1 主題設定の理由

これからの学校教育は、単に学校だけでなく、学校・家庭・地域社会が、それぞれ適切な役割を果たしつつ、相互に連携して行われることが望まれている。そこで、宮崎支会第9班では、家庭や地域社会とともに生徒を育てていくという視点に立った学校運営の実現に向けて連携を推進していくことが責務であると考え、本主題を設定した。

## 2 研究のねらい

家庭や地域社会に開かれた学校を創るための教頭のよりよい関わり方を明らかにする。

## 3 研究の概要と成果

### (1) 研究計画

本研究班は、宮崎市内の中学校6校で構成されている。本年度は、研究1年目となるため、まずは各校の実態に応じて、家庭や地域社会と一体となった教育活動を展開し、各校の実践を整理し、考察する。そして、教頭のよりよい関わり方、有効な手立て等をまとめ、各校で生じた課題解決のためにしっかりと2年目の研究へと繋いでいきたいと考えている。

### (2) 研究の仮説

学校と家庭や地域社会が連携した教育活動を展開し、その後の成果や課題を整理することで、教頭のよりよい関わり方が明確になるだろう。

### (3) 研究内容

ア 学校と家庭や地域社会が一体となった教育活動の実践

イ 実践後の成果や課題を整理し、教頭のよりよい関わり方の視点での考察

### (4) 各学校の実践

ア 「民生児童委員との懇談会」

ある中学校では、毎年夏季休業中に民生児童委員の方々と情報交換の場を設けている。

【写真1】始めに、学校の様子や不登校生徒の状況等を説明した後、参加者から各地区の生徒の様子や気になる状況をお話いただいた。特に自転車による生徒の登下校の様子を危惧する意見が多かったことから、早速、夏季休業明けのオンラインによる集会時に、生徒指導主事から生徒に注意を促した。

また、委員の方から、魅力ある学校づくり

を目指してほしいという意見や、一人一人の生徒にしっかりと学力を身に付けさせてほしいという意見もいただいた。幸い、現在学校で検討を進めている未来の学校づくりが委員の方のニーズにも応えるものとなっているため、その概要を教頭が説明し、併せて、学校公開日の案内も行った。委員の方には、今後も意見をいただきながら、よりよい学校づくりを進めていきたいと考えている。



【写真1】民生児童委員との懇談会の様子

### イ 「地域人材の活用による授業支援」

今年度、地域の方々のご協力を得て、家庭科の授業支援を実施した。1年生の裁縫と3年生の保育実習の授業に、ボランティアとして参加していただいた。【写真2】

この取組は、年度の初めに家庭科担当から教頭にボランティアの依頼があったことがきっかけである。教頭が地域の民生委員に相談したところ、快く引き受けていただけになった。その後、家庭科担当とボランティアの方々が数回にわたって打合せを重ねた。

実際に授業に入っていただくと、生徒一人一人に対して、よりきめ細やかな指導が可能になり、生徒たちの満足度も高まった。ボランティアの方々も、中学生との交流を心から楽しみにしてくださっている様子うかがえ、毎回笑顔で来校してくださった。

単元が終了した際には、教頭、家庭科担当、ボランティアの皆様で給食を一緒に囲み、次回の打合せを行った。さらに、夏休みには2日間にわたり裁縫の補習を開き、課題を終えられていない生徒が参加した。この補習では、生徒たちもボランティアの方々も、非常に楽



【写真2】家庭科の授業支援の様子

しように過ごしていたのが印象的であった。

今回、10名を超える地域の方々にご協力いただき、改めて地域人材を活用することの大きな意義を実感することができた。今後も「地域に開かれた学校」をめざし、様々な取組に挑戦していきたい。

#### ウ 「総合的な学習の時間での授業支援」

1年生の総合的な学習の時間に「大宮探訪」という学習活動を行っている。この学習の目的は、「郷土学習やフィールドワークを通して、郷土の偉人や自然に触れさせ、郷土愛を深めること」と「グループ活動を通して、生徒間の理解と連帯感を高めるとともに、助け合いや思いやりの心を育てること」である。この学習の講師を大宮地域まちづくり推進委員会の方に依頼して行っている。そこで、教頭の役割は、年度当初に大宮まちづくり推進委員会事務局に講師の依頼をして期日の調整をすることである。毎年10名程度の方が講師として協力してくださるが、その調整は大宮地区まちづくり推進委員会事務局の方がしてくださっている。また、話をさせていただく場所など詳細については学年主任が行うようにしている。

景清廟、皇宮屋など講師の方による詳しい説明に、生徒は興味・関心をもって話を聞き、地域理解も深まる有意義な活動である。

活動終了後に教頭からまちづくり推進委員会事務局の方にお礼の電話をかけ、ご意見も伺っているが、さらに次年度の活動が充実したものになるように推進委員の方との協議の場をどう設定するかが課題である。

#### エ 「防災教育を軸にした連携・協働」

本年度は、3年生の総合的な学習の時間のテーマを地域防災と位置付けた。7月には生徒が

佐土原小区・那珂小区に分かれて地域づくり協議会や自治会の方から地域防災について説明を受けたのち、意見交換を行った。夏季休業中には、生徒が各地区の防災に関して調査活動を行ったり、各自治会の訓練に参加したりした。また、PTA役員と相談し、夏季休業中の家庭教育学級で地域在住の防災士の講話及び起震車体験を行った。保護者及び生徒で約50名の参加があった。【写真3】



【写真3】起震車体験を行う様子

様々な活動を充実させるためには日ごろからの学校運営協議会やPTA役員との対話が重要であり、調整・検討の窓口が教頭の役目である。今後も行事に限らず日常的な繋がりを意識し、課題を共有しながら関わりを深めていきたい。

#### 4 考察

本研究班の実践から見えた成果と課題を整理し、次のように考察した。

- 地域と連携した学習を実践することで、生徒の学びが充実するとともに、地域理解や学校と地域との信頼関係の強化がいつそう図られる。
- 情報交換会や授業協力を行うことにより、地域に開かれた学校づくりが前進する。
- 学校運営協議会やまちづくり推進委員会など、組織的なサポートをさらに活用し、地域との連携を効率化できるとよい。
- 学校と地域が連携した教育活動を推進するために、地域からの主体的な関わりをどのように引き出すか、今後も研究を深めていく必要がある。
- 教頭が地域連携の窓口になることは望ましいことだが、負担過重にならないように具体的なことに関しては、できるだけ担当者同士で協議してもらうように事前に確認しておいたほうがよい。